

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日本語表現法	NLA11_012	選択	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
桑原 修	教員控室	o.kuwa	木曜日 10:00~12:40		
授業の目的・概要	本授業では、学生が日本語を使って自分の意見や思いを明確に表現できるようになることを目指す。具体的には、コミュニケーションスキルを高め、日常生活やビジネスシーンでの円滑なやり取りを促進するなど、表現の幅を広げることを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	日本語表現力を高め自分の意思を的確に伝えるためには、新聞や書籍などの活字を積極的に読む習慣を身に付けることが大切である。これにより語彙力が増し、様々な場面で円滑なコミュニケーションを図ることが可能となる。				
教科書	特に指定なし				
参考書	特に指定なし				
外部教材	特に指定なし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	自分の意見や感情を明確に表現することができる。		HSU(1)(2)(4)(5)		
②	基本的な文法と語彙を正確に使用することができる。		HSU(2)(5)		
③	他者の意見を尊重し、受け入れることができる。		HSU(1)(2)(4)(5)		
④	コミュニケーションスキルを身に付け、様々な場面で活用することができる。		HSU(1)(4)(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション:授業の進め方、評価方法の説明、学習方法を理解する。自己紹介を行う。	講義	事前に自己紹介のための資料を作成する。	2	
2	日本語表現法で何を学ぶかについて学習する。	講義	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
3	日本語の基本的な構造について理解する。	講義	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
4	コミュニケーション能力の上げ方について学習する。	講義	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
5	主語と述語の見分け方、助詞や助動詞の区別について学習する。	講義	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
6	語彙と敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)、間違いやすい日本語や二重表現について学習する。	講義	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
7	履歴書(自己PR等)の書き方、面接の対応について学習する。	講義・演習	新聞や書籍などで活字を読む習慣を身に付ける。講義内容を復習し課題に取り組む。	4	
8	講義を振り返り、自己評価と達成度評価を行う。	講義	達成度評価を作成し提出する。	4	
試	期末試験は行わない。				

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	0	100	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	25	25
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	40	40
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	25	25
		0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	授業に対する取組み姿勢や意欲(出席状況や授業態度)、課題の提出状況などを総合的に判断する(100%)。			授業内で行う課題を通じてフィードバックする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	なし						
実践的授業の内容	日本語の理解を深めるために、具体的な事例を紹介するほか、必要に応じて視聴覚教材を使用して授業を進める。						
そ の 他	今後の学生生活やビジネスシーンなどで円滑なコミュニケーションを図ることは大切である。これを実践するために必要な日本語スキルの向上と習得を目指している。学生自ら「学び」を深め、積極的に取り組むことを期待する。本科目は対面授業として実施するため、大学が公表する感染症対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業の出席を認めない。また、感染症等の影響による社会情勢の変化によってはシラバスの変更が行われることがある。欠欠状況は評価の対象となるため、欠席や遅刻をしないように努めること。						